

# 大分川ダム試験湛水の状況と計測モニタリング 部会の設置について

---

令和7年11月

九州地方整備局



国土交通省

九州地方整備局

# 大分川ダムの概要

- 大分川ダムは、平成29年5月にダム本体盛立が完了し、平成30年2月より試験湛水を開始。
- 平成30年以降、非洪水期に貯留をおこなってきたが、試験湛水実施要領に定められている最高水位であるSWL水位に未だ到達していない。

## ■位置図



※ダム名称は、事業完了後、大分川ダムからななせダムに変更となります。

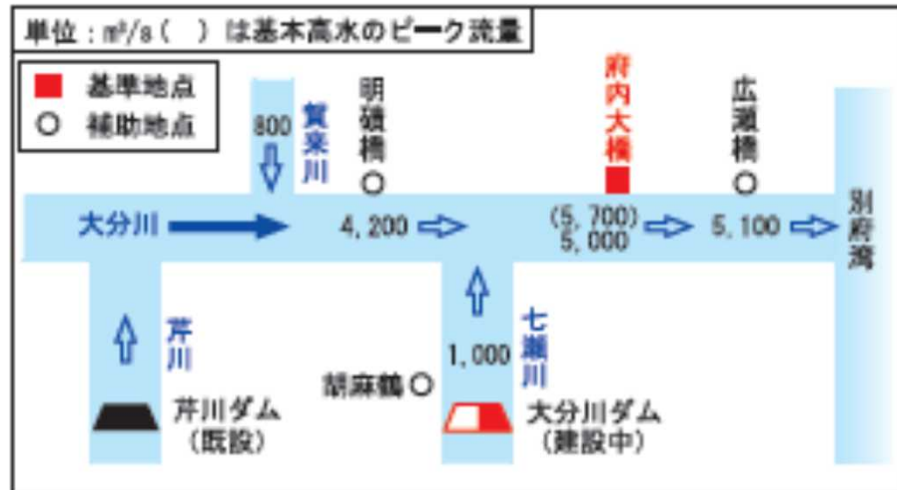
- 場 所  
大分県大分市（大分川水系七瀬川）
- 目 的  
洪水調節（大分川、七瀬川の洪水防御）  
流水の正常な機能の維持  
水道用水の供給（大分市：最大0.405m<sup>3</sup>/s）
- 諸 元 ロックフィルダム  
高さ91.6m、総貯水容量2,400万m<sup>3</sup>
- 工 期 昭和62年度～平成31年度
- 総事業費及び進捗状況  
総事業費 約1,036億円

ゲートレスダムのため、試験湛水時（非洪水期）は、常用洪水吐を鋼製ゲートで閉塞して貯留をおこなっている

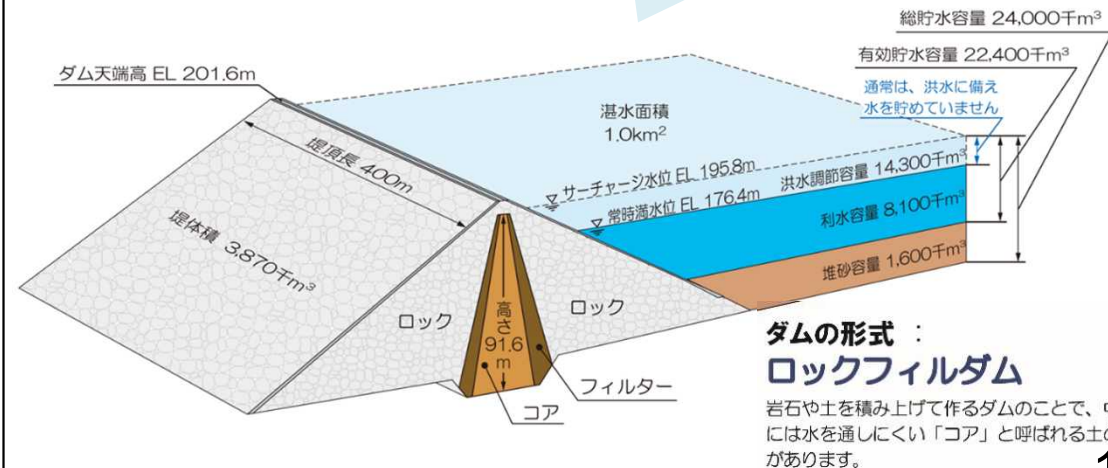


常用洪水吐閉塞状況

○ダム地点カット量 610m<sup>3</sup>/s → 180m<sup>3</sup>/s (-430m<sup>3</sup>/s) 計画高水流量配分図



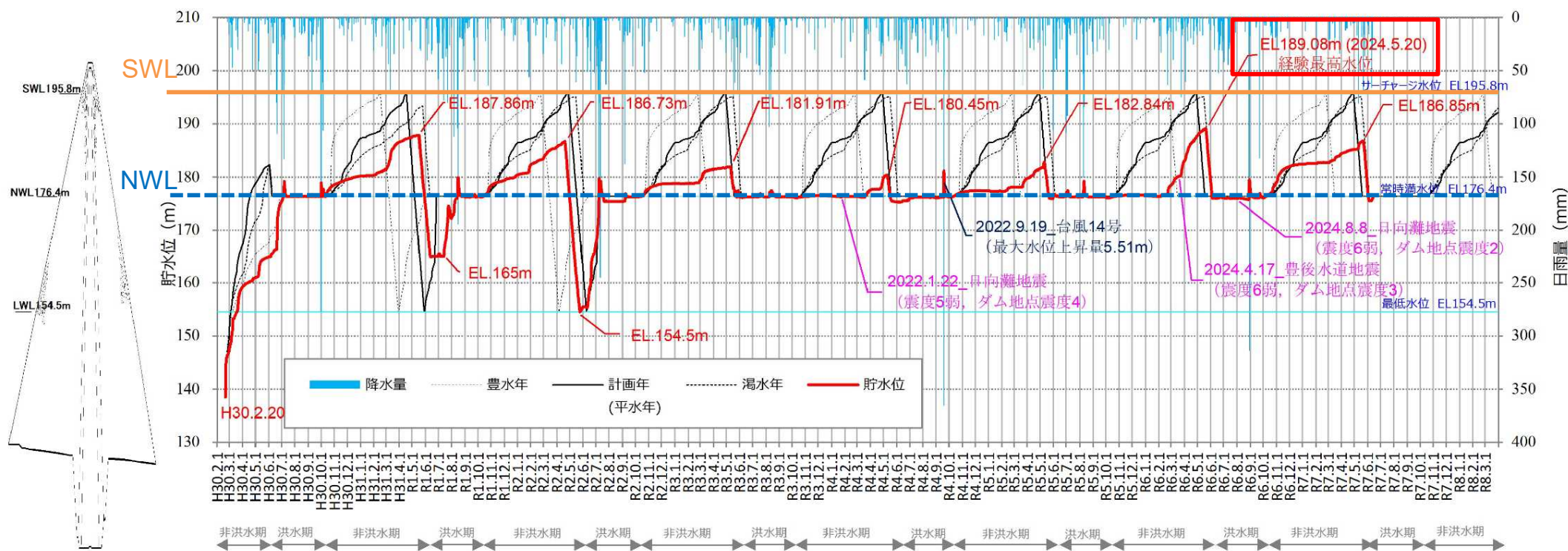
## ■大分川ダムの諸元



# 大分川ダム試験湛水の状況

- 平成30年2月20日試験湛水開始以降、令和7年11月で7年間経過したが、計画最高水位であるSWL.195.8 mには到達しておらず、経験最高水位は、令和6年5月20日のEL. 189.08 m (SWL. -6.7m) となっている。
- この間、5回にわたる洪水調節による下流浸水被害の軽減、令和3年1月には共同事業者である大分市上水道へ補給できる体制を確保できており、治水・利水面の機能は発揮している状態である。
- また、ダム地点で震度4を記録した令和4年1月の日向灘地震など複数の地震も経験している。

大分川ダム試験湛水期間中の貯水位変動図





# 大分川ダム試験湛水計画

- 大分川ダムは、自然調節方式（洪水調節ゲート無し）のダムであるため、非洪水期（10月21日～翌年6月10日）に常用洪水吐きを鋼製閉塞ゲートで閉塞し、河川に必要な流量は下流に補給しながら、貯水位を上昇させて試験湛水を行う計画となっている。
- 一方で、ななせダムは、集水面積に対して治水容量が大きく貯留しにくいダムとなっており、非洪水期の少雨の影響もあり長期化している。また、洪水期は大雨時に治水効果を発現する必要があるため閉塞ゲートは設置することができない。
- 試験湛水が長期化していることで、閉塞ゲート設置・撤去費用、非洪水期の下流河川の流況を人為的に減らしている、湖面利用の制限など課題が顕在化している状況。



非洪水期の常用洪水吐閉塞状況

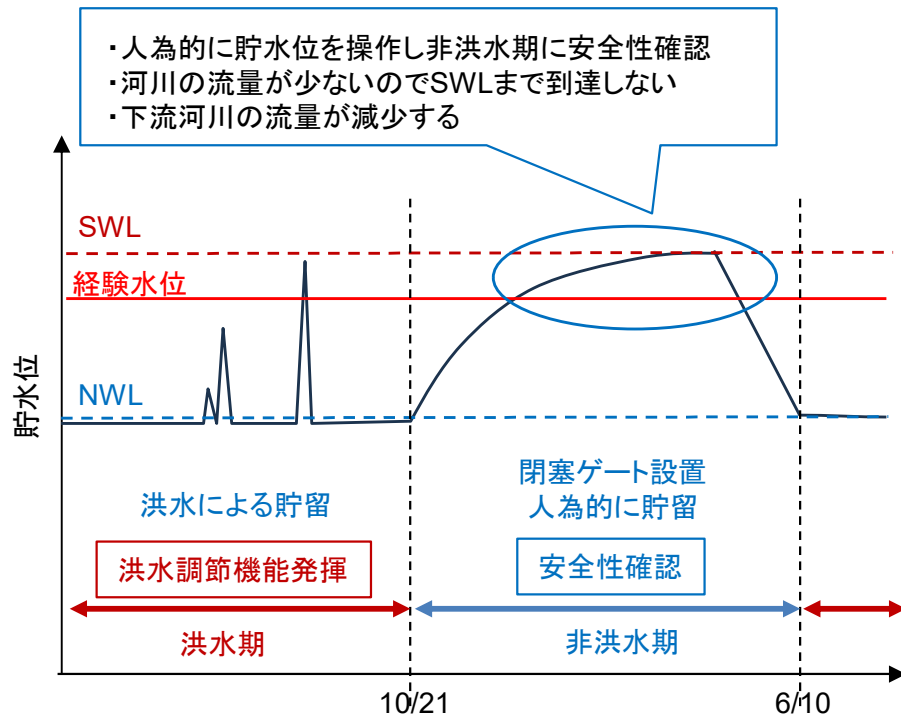


試験湛水期間の実績雨量  
（今市雨量観測所）

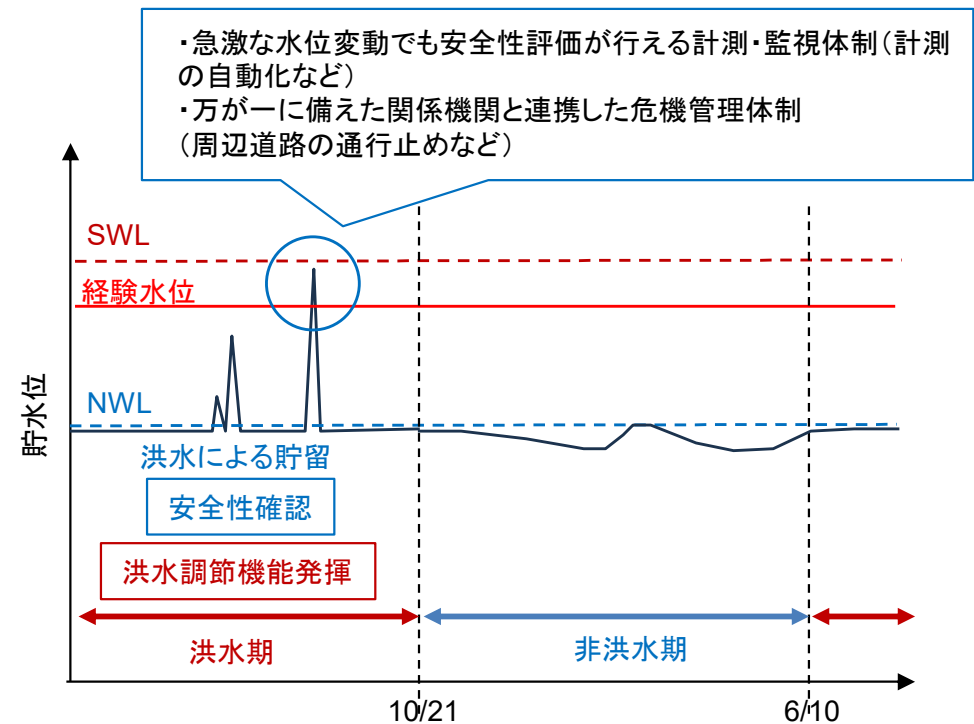
# 大分川ダム今後の試験湛水方針

- 7回にわたる貯水位変動時の計測・点検結果より、令和7年11月時点で異常は生じておらず、計測結果を元にSWL時の安全性についても問題ないものと評価している。一方で、試験湛水実施要領に定められたSWL水位は未達であり不確実性が含まれるため、今後も試験湛水（安全性確認）は継続する。
- 非洪水期に常用洪水吐を閉塞ゲートにより閉塞して貯留する従来の手法では、SWL水位到達は困難であることから、今後は、以下2点の対応を行うことで、本運用を行いながら安全性確認を継続する。
  - ①洪水の貯留による貯水位変動であっても、将来にわたって安全性評価が行える計測・監視・評価体制の構築
  - ②万が一異常が発生しても社会的影響を生じさせないよう、関係機関と連携した危機管理体制の構築

## 今までの試験湛水

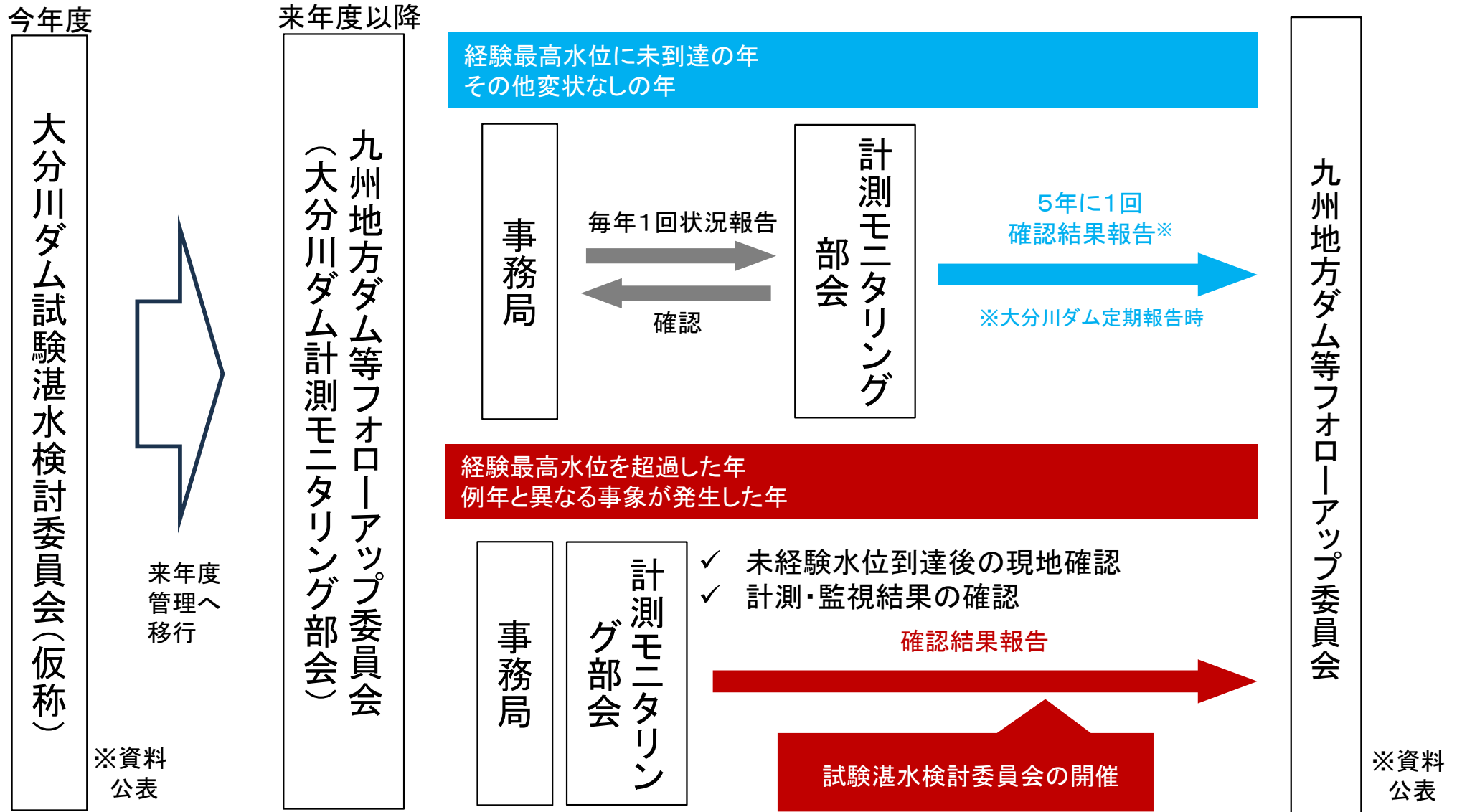


## これからの試験湛水



# 試験湛水検討委員会と計測モニタリング部会の設置について

- 今年度、試験湛水検討委員会を開催し、(1)試験湛水結果及びSWL想定の評価、(2)適切な計測・監視及び安全性確認体制 について審議。
- 管理移行後は、大分川ダム計測モニタリング部会として開催し、経験最高水位に未到達の年は、事務局より委員へ毎年1回状況報告を行う。  
5年に1回(※)フォローアップ委員会へ報告する。 ※大分川ダム定期報告時
- 洪水により経験最高水位を超過した年や例年と異なる傾向の事象が発生した年には、部会の開催及び必要に応じて試験湛水検討委員会として開催し、未経験水位到達後の現地確認や計測・監視結果の確認を行う。





# [参考]大分川ダム周辺の関係施設配置状況

